

公益社団法人 伊奈町シルバー人材センター

令和6年度事業報告

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

令和6年度は、国際情勢が日々変化する中で、日本国内・外で様々な出来事が起こりました。

海外では、パリで7月26日から8月11日までの日程でオリンピックが開催され、日本選手団が活躍し、金、銀、銅メダル合わせて45個のメダルを獲得しました。また、アメリカ大リーグのドジャースの大谷翔平選手が、ひとつのシーズンでホームラン50本、50盗塁以上を達成し、大リーグ史上初めての快挙を成し遂げるなど、日本人が世界で活躍し、明るい話題となりました。

国内では、7月3日に20年ぶりに新紙幣が発行され、新たな紙幣の一万円札には、埼玉県の偉人で「近代日本経済の父」と呼ばれる渋沢栄一の肖像がデザインされました。また、特定受託事業者に係る取引の適正化等に関する法律（「フリーランス新法」）が施行され、業務委託する契約について契約方法の見直しが必要になるなど、私たちの身近な所でも環境の変化がおきました。

このような状況の中、当センターは、「自主・自立、共働・共助」の理念の下、就業を希望する高齢者に就業機会を提供するとともに、地域社会への参加活動の推進や健康で生きがいのある生活の実現に寄与し、会員の皆様が健康で安全に就業できるよう各種の事業に取り組んだほか、会員増強のための普及啓発活動や就業機会の確保・拡大並びに安全・適正就業の推進等に努めてまいりました。

令和6年度末の会員数は329名で、「会員紹介キャンペーン」の実施や「女性向け入会説明会」の開催、「広報いな」への記事の掲載など、会員増強に取り組んだところでございますが、前年度と比較して7名の減となりました。

事業実績につきましては、受注件数で前年度比4.8%減の1,630件、契約金額では、前年度比3.8%増の約1億7,600万円となる一方で、就業延人員は前年度比4.0%減の38,952人とどまりました。

内訳としては、請負の受注件数が86件減少し、1,549件（前年度比較：5.5%減）、契約金額は350万円減少し、約1億500万円（前年度比較：3.2%減）となりました。

派遣事業においては、受注件数、契約金額ともに前年度を上回りました。受注件数は4件増加し81件（前年度比較：5.2%増）、契約金額は994万円増加し、約7,100万円（前年度比較：16.3%増）となりました。この内1件は、請負就業から派遣就業へ切り替わったものです。

以下、主な事業についてご報告いたします。

1 会員の増強と就業開拓提供事業

- 1) 会員の増強と就業機会拡大を図るため、10月1日から本年3月31日までの間、会員全員で「1人一声加入運動」を展開するとともに、町内回覧等の実施に伴う相乗効果に加え、9月から3月までの7か月間、「会員紹介キャンペーン」などを実施し、期間中26名の加入申し込みがありました。
- 2) 今後更に増加が見込まれる「福祉・家事援助サービス事業」分野などの女性会員の増強を図るため、女性向け入会説明会を3回開催し、3名の加入申し込みがありました。女性入会説明会においては、女性役員・女性職員が対応し入会対象者に配慮した説明会を実施しました。
- 3) 町内事業所及び一般家庭に向け、センター事業の理解と派遣を含めた就業機会の拡大を図るため、公共施設・金融機関等への啓発チラシの配置をお願いしました。また、町内事業所を就業開拓として6月から3月までの期間で95の事業所を訪問し、5の事業所から問い合わせや相談があり、4件の新規就業開拓に繋がりました。
- 4) 会員の知識と経験とをマッチングさせ就業機会の拡大を図れるよう推進しておりますが、請負と派遣を合わせた契約受注件数は1,630件（対前年82件減）となっております。引き続き、業務の新規開拓に努めてまいります。
なお、就業率は、請負と派遣を合わせて97.3%（前年度比較：1.2%の増）でした。

2 普及啓発活動事業

- 1) 公共施設・金融機関等へのチラシの配置依頼や町全区への回覧を1回、センター広報紙「シルバーいな」を2回発行、町広報紙に記事の掲載を2回行うなど、普及啓発活動を展開しました。
また、ホームページを活用し、普及啓発に努めました。

- 2) 「会員紹介キャンペーン」を9月から3月までの7か月間の期間で実施し、入会の促進を図りました。また、キャンペーンチラシを町全区で回覧しました。
- 3) 普及啓発活動の一環として、伊奈まつり会場及び当センター周辺での清掃ボランティア活動を2回実施しました。延べ81名の会員が参加し、ごみ拾いなどの社会奉仕活動を実施しました。
- 4) 町と締結した「伊奈町見守りオレンジネットワーク事業協定」(令和3年2月1日締結)により、協力事業者の一員として、認知症や孤立等で支援が必要な方の発見や日常生活における異変の早期発見、早期対応のため、地域の見守り活動を実施しました。

3 研修・講習事業

- 1) 会員の就業に必要な知識・技能の向上のため、接遇・ハラスメント防止研修及び機械除草班による刈払機取り扱いについての安全就業研修を実施しました。
- 2) その他、派遣事業やフレイル予防等、役員及び職員の研修事業に参加しました。

4 介護予防・日常生活支援総合事業

- 1) 町と当センターが相互に連携・協力し、「介護予防・日常生活支援総合事業」の「訪問型サービス」を実施し、生活支援サービスの提供をしています。

5 相談事業

- 1) 町内在住の高齢者に対して就業機会の提供を図るよう、毎月第3水曜日開催の入会説明会の他、女性を対象とした入会説明会を2回開催しました。
(入会説明会出席者53名 内男性28名、女性25名)
- 2) 入会説明会には役員も同席し、実際の体験談なども含めて、シルバーでの作業内容や概要説明等を実施しています。また、会員間の就業上の相談を受け就業改善に努めました。

6 安全・適正就業推進事業

- 1) 「安全第一」・「事故ゼロ」を目指して、安全・適正就業委員会委員等3名による就業現場への「安全パトロール」を原則毎月1回行うよう計画し、年間で11回、延64か所を巡回実施しました。
これにより、就業現場の安全環境の再確認、安全就業意識の向上が図られました。
- 2) 会員の安全就業に必要な知識・技能の向上のため、接遇・ハラスメント防止研修及び機械除草班による刈払機取り扱いについての安全就業研修を実施しました。
事故等の発生状況は、傷害事故4件、物損事故5件、合わせて9件(対前年15件減)でした。
- 3) 夏季期間中の就業における熱中症対策に関し、令和6年度に策定した「熱中症予防ガイドライン」に基づき、熱中症特別警戒アラートや暑さ指数(WBGT値)をもとに注意喚起を行い、会員の熱中症予防を図りました。
- 4) 「会員必携安全就業ハンドブック」を配付活用し安全就業の徹底を図りました。

- 5) 前年度に引き続き、会員の就業時間及び就業期間の配分を考え、会員の能力に応じて公平に働く機会が得られるよう運営を図っていくことを検討しました。引き続き、会員数を増加させることや、会員の高年齢化などの課題を整理しながら、安定したローテーションプランの検討を進めていきます。

7 その他

- 1) 会員相互の交流として、令和5年10月から2つサークルが立ち上がっています。各サークルでは、就労とは異なる時間で会員相互の交流が行われました。今後も会員の交流機会の充実に努めます。